

令和6年度 事業報告

2024年4月1日 ～ 2025年3月31日

特定非営利活動法人みずうみ

令和6年度の組織目標

- (1) みずうみは心安らぐコミュニティ ～アットホームな雰囲気・関係性の向上～
- (2) 工賃の維持・向上
- (3) マンパワーの再構築

I 令和6年度の重点的取り組み

- (1) みずうみは心安らぐコミュニティ ～アットホームな雰囲気・関係性の向上～

1 利用者様と職員のコミュニケーションの向上

計 画	結 果
1) すべての利用者様に心配りと毎日の声掛けを行う	作業の点検時等、以前より利用者様と職員の会話が増えた。利用者様の観察からメンタル不調のサインを感じた時は静かに声をかけたり、別室で面談するなど対応した。 <u>来年度</u> ご本人からの働きかけの少ない利用者様ほど会話へのニーズが強いため、意識的に声掛けを行っていく。
2) 現場の支援における主任の役割の強化 (利用者様全体を見て、支援の充実を目指す)	今まで担当制だったモニタリングを段階的に全て主任が行っていく方向とし、利用者様全員の状況をしっかりと把握し、現場全体を見て支援を考えていけるよう役割強化を図った。また今年度より個別支援計画のサービス担当者会議に利用者様ご本人にも参加することになり、モニタリングの機会以外にもサビ管と一緒に直接ニーズを確認したり、利用者様の意思や目標を共有することがで

	きた。 来年度継続する。
3) 日常的な情報収集とサービス管理責任者への情報の集約、職員間の情報共有	日常的な情報収集、集約を実施した。 来年度継続する。
4) サービス管理責任者と担当職員の協働による支援計画の作成と見直し (計画作成 1回/半年の他必要時、モニタリング 1回/3か月)	R6年度報酬改定において個別支援計画の手順が変更となり、サービス担当者会議に利用者本人の参加が義務付けられた。サビ管が作成した原案をもとに、利用者様、主任の意見を合わせて計画書の作成を行った。今まで以上にご本人のニーズに沿った計画に基づいた支援が行えるようになった。 来年度継続する。

2 利用者様同士のコミュニケーションの向上

計 画	結 果
1) 日常的な関わりの見守り、サポート	利用者様同士のコミュニケーションも活発で、作業中や昼休みに楽しげな会話が聞かれた。一部の利用者様はプライベートでも交流されている。その一方で、トラブルの予兆が見られたときには、いち早く間に入って調整等を行った。必要な時は支援者やご家族とも情報を共有し、大きな問題に発展しないよう策を講じた。 来年度日頃から利用者様の言動に注意し、日常的に聞き取りをして対人関係の調整を行っていく。
3) お楽しみやリフレッシュの機会づくり (外出レクリエーションの再開、部活動、お楽しみ会、掲示コーナーの活用等)	【お出かけレク】 6月：仔牛とのふれあい体験・ピザ焼き体験 (伊藤牧場・カウベル) →しまね花の郷 9月：松江城・堀川遊覧船。 12月：クリスマス忘年会(みつばちでランチ) 3月：NHK 松江見学、出雲かんべの里ものづくり体験 ※写真は後日掲示板に展示。 【にこにこの会】 レクのない月はグループトークを楽しむにこにこの会を開催。利用者様はどうしてもコミュニケーションをとる機会が少なかったり、中には苦手意識をもっておられる方もいるので、毎回たわいもないテーマを設けて複数人で話をする機会を作っ

	ている。この会に参加したいため、病院受診後わざわざ出勤される利用者様や休みを変更して参加される利用者様もおられる。 お出かけレク、にこにこの会ともに時間に余裕がある時はゲームなども取り入れ、ふれあいの時間を設けた。 部活動（園芸部）は季節ごとに花の植え替えを行った。掲示コーナーはレクの写真を飾ったり、イベントのチラシなどを貼って周知するのに活用した。 <u>来年度</u>お出かけレクはどうしても観光地を巡りがちだが、高齢の利用者様が多くなり歩くことが難しくなっている。10月にレクについてのアンケートを実施。やはり1日お出かけするレクが一番人気だったが、中にはコロナ禍に行っていた「あおぞらの会（お出かけなしで弁当やスイーツを提供）」などの希望もあり、今後はアンケートの意見を参考に無理なく楽しんでもらえるレクを考えていく。
--	--

3 安全で清潔な環境づくり

計 画	結 果
1) 感染対策の継続（ハード・ソフト両面の感染防止対策、情報の収集・共有・提供）	○感染状況 コロナ：利用者様感染2人（3/21、3/24）。職員感染1人（8/12）。利用者様家族の感染1件（7/12）。グループホーム同居者のコロナ感染4件。 インフルエンザ：利用者様感染1人（12/27）。 その他、2月中に利用者様やグループホームで下痢・嘔吐等の症状が出るケースが数件あった。 ○予防対策 ハード面ではテーブル配置、パーテーション、ソフト面ではマスク着用、換気を継続した。 11月末にインフルエンザ予防接種を実施（接種代～64歳3,500円、65歳～2,000円のうち、利用者様負担各1,000円。事業所負担計30,000円）。 <u>来年度</u>コロナ、インフルエンザ等の感染対策を継続していく。インフルエンザ予防接種費用の事業所負担は利用者様、職員ともに実施していく。

2) 高齢化に対する安全対策（転倒防止のための環境整備と支援提供）	内職作業が増え、大きい箱折りがあるときはスペースも手狭になった。全体の高齢化に加え、視覚障害の利用者様も新たに入られたため、一層の注意を行った。 <u>来年度</u>職員一人ひとりが転倒リスクについての意識を高め、環境整備、支援提供していく。
3) 清潔・快適な環境の整備	日々の掃除に加え、汚れが気になる場所があれば都度清掃を行い、清潔な環境の維持に努めた。 <u>来年度</u>利用者様の意見を取り入れながら、快適に過ごしてもらえるよう環境を整備していく。

4 リスクマネジメントの取り組み

計 画	結 果
1) 虐待防止委員会の開催（1回／年）、研修の実施（1回／年）	○虐待防止委員会 3/25 開催。 ○研修 3/5 実施。5人参加。 講師：一般社団法人インクルージョンしまね いんくるネットいずも 吉田太郎様 <u>来年度</u>継続する。
2) 感染対策委員会の開催（4回／年）、研修・訓練の実施（各2回／年）	○感染対策委員会 全4回開催(6/26、9/24、12/25、3/12) ○研修・訓練 全2回実施（8/6、3/12） 研修：eラーニング（事前に動画を各自視聴）、マニュアル読み合わせ→意見交換 訓練：机上訓練（指針、BCPの読み合わせ、行動確認、意見交換） <u>来年度</u>継続する。
3) 感染症まん延時・非常災害発生時の業務継続計画に係る研修・訓練（各1回／年）	8/6 実施。 研修：eラーニング（事前に動画を各自視聴）→意見交換 訓練：机上訓練（指針、BCPの読み合わせ、意見交換） 実施後、飲料水の備蓄を行った。 <u>来年度</u>継続する。

(2) 工賃の維持・向上

1 施設外就労の継続

計 画	結 果
-----	-----

1)「みつばち」との連携	客数も安定し順調に経営が続けられ、利用者様もスキルアップし任される作業の幅も広がった。その一方、多忙により対応が困難となったり、健康上の問題で参加できる利用者様が 1/30 から 2 人のみとなった。シェフと話し合いを行い、利用者様の障害特性や対応について改めて説明し、一層の配慮をお願いした。 参加者が少なく厳しい状況ではあるが、利用者様に過度な負担がかからないよう注意して実施を続けた。 来年度施設外就労が継続できるよう、必要に応じて業務内容の見直しや利用者様への対応について話し合いを行っていく。また、経営の継続が難しくなってきたときには、早急に次の対応を協議する。
2)利用者様への支援の質の向上、スキルアップ	当初、掃除と食器洗いが主な作業だったが、今では配膳の準備をするほどまでにスキルアップされた利用者様もおられ、ランチタイムには欠かせないスタッフの一人になった。スキルアップした利用者様の工賃を 10 月分から、1 コマ (1 時間 45 分) 1,000 円→実際に業務委託料としていただいている時給 700 円にアップした。 参加できる利用者様が減少したことで、2 人の参加者に負担が集中しているため、心身の状態をよく観察し、思いを聞き、無理され過ぎないように注意を行った。 来年度忙しい午後の時給を 4 月からさらに 50 円アップし、継続の励みとしていく。また利用者様に負担がかかり過ぎない方法を検討していく。

2 工賃維持・向上の取り組み

計 画	結 果
1) 椎茸の収穫量・質の向上	猛暑の影響か 7～9 月に収穫量が低迷したが、5～6 月、10～1 月まで過去最高レベルの売上を達成した。質も B 品が少なくパック品が多い状況が続いた。デジタルの温湿度計を購入し、精密なデータ管理が可能になった。経年劣化で換気扇が故障し修理を実施。床に敷いている鉄板がずれてきてエアコンの効きにムラが出ている。

	来年度菌床の交換を7か月に1回とし、発生状況を確認していく。猛暑、寒波等気候の変動や、設備の劣化等に細やかに対応し、収穫量の向上に努める。
2) 下請作業の効率化等（高工賃の作業確保、効率化、スペースの有効活用）	下請作業の中心はカズキ高分子のマジック作業で、単価は低いものの皆が慣れてこられ誰もが量産できるようになった。また、単純作業しかできない利用者様の作業確保ともなっている。10月末でかみありづきが廃業し、紹介で原寿園の作業がスタートした。 来年度内職が複数あるため、納期を考えながらどの作業を誰にしてもらうか等スケジュール管理をしっかりとっていく。
3) アルミ缶の盗難防止対策	日曜の夕方に施錠しないときは盗まれるため、引き続き施錠を行った。 来年度よい方法があれば実施する。
4) 出勤日数や作業量が少ない利用者様への働きかけや作業提供の工夫	欠席が続く利用者様には電話を入れ、現在の様子などを聞き通所を促した。担当相談員とも定期的に情報を共有。作業量が少ない利用者様には各職員がそれぞれの立場から声をかけたり思いを聞いて励ました。また、数値目標を設定することでモチベーションアップを図った。休憩室で過ごすことの多い利用者様に、職員の目の届くところで過ごすようにしてもらったところ、朝から作業に取り組めるようになったケースもあった。 対応の難しいケースでは、相談員やご家族様と連携を取り、対策を一緒に考え実施した（例：保護者の許可を得てノルマ制を実施）。 来年度利用者様の可能性を引き出せるよう、あきらめず、色々な発想でチャレンジしてもらっていく。
5) 新規事業の模索	はじめに、西浜いもを地元農家から仕入れて焼き、新施設で焼きいもとして販売することを検討。地元農家との業務提携を含め、地域との連携体制をつくっていく方向で検討を開始した。 体を動かす作業ができる利用者様が少ないため、いもをつくることは困難と考えていたが、同じお金がかかるなら職員の人件費に充て、自前でつく

	ったいもを焼いて販売することが付加価値にもなると考えた。利用者様の中からも意欲的な声が複数聞かれたため、来年度試行的にいもづくりを試みる方向で決定した。 <u>来年度</u>営農センター、かんしょ組合に相談しながら、試行的にいもづくりを行ってみる。
--	--

〔6年度数値目標〕

計 画	結 果																				
① 1日平均利用者数＝13人	実績＝12.7人（前年度実績＝12.9人） ※休日出勤を除いた実績＝12.9人（前年度実績＝13.1人） 8月に利用者の休所、欠席が非常に多くなり、11.61人まで低下。9月には13.5人に回復した。 9月に利用開始された74歳男性利用者様は10月半ばから休所されたが、2月から再開。1月に一般就労退職後利用開始された64歳女性利用者様は皆勤で通所。2月からは45歳女性利用者様も利用開始され、今年度は3人の新規利用者に恵まれた。退所者は1人に留まった。 今年も養護学校等の実習依頼はゼロだった。 <u>来年度</u> 近年は新規利用者より退所者が多い状況が続いていたが、徐々に逆転した。来年度も油断することなく現利用者様への支援の充実、さらなる新規利用者確保に努めていく。																				
②目標工賃＝月 額 19,875円 時間額 301円	実績＝月 額 20,025円 時間額 273円 （前年度実績＝月 額 19,253円 時間額 262円） ※単純な平均による実績＝月額 12,519円 〃 前年度実績＝月額 12,279円 ＊工賃実績 <table><tr><th>月</th><th>平均工賃</th><th>月</th><th>平均工賃</th></tr><tr><td>4月</td><td>11,309円</td><td>10月</td><td>11,535円</td></tr><tr><td>5月</td><td>11,709円</td><td>11月</td><td>13,144円</td></tr><tr><td>6月</td><td>10,057円</td><td>12月</td><td>13,124円</td></tr><tr><td>7月</td><td>10,249円</td><td>1月</td><td>11,659円</td></tr></table>	月	平均工賃	月	平均工賃	4月	11,309円	10月	11,535円	5月	11,709円	11月	13,144円	6月	10,057円	12月	13,124円	7月	10,249円	1月	11,659円
月	平均工賃	月	平均工賃																		
4月	11,309円	10月	11,535円																		
5月	11,709円	11月	13,144円																		
6月	10,057円	12月	13,124円																		
7月	10,249円	1月	11,659円																		

	<table><tr><td>8 月</td><td>7, 875 円</td><td>2 月</td><td>15, 180 円</td></tr><tr><td>9 月</td><td>9, 893 円</td><td>3 月</td><td>24, 494 円</td></tr></table> 7 月半ば以降、みつばち工賃を 1 人分しか支給していないため、平均工賃がさらに低下（職員 1 人分の工賃は、様子を見ながら調整手当として全利用者に配分）。最終的に椎茸・みつばちの収益、職員の作業工賃を 3 月分工賃で多く配分できたため、報酬の区分を上げることができた。 来年度椎茸の収穫量・質の向上、下請作業の効率化・モチベーションアップ、施設外就労の継続、新規事業の試行、アルミ缶盗難防止等により工賃の回復に努めるとともに、工賃以外の魅力向上の工夫を行っていく。	8 月	7, 875 円	2 月	15, 180 円	9 月	9, 893 円	3 月	24, 494 円																								
8 月	7, 875 円	2 月	15, 180 円																														
9 月	9, 893 円	3 月	24, 494 円																														
③椎茸事業＝JA 出荷重量 4,000kg／年 売 上 金 額 230,000 円／月	*売上金額推移 <table><tr><td>月</td><td>売上金額</td><td>月</td><td>売上金額</td></tr><tr><td>4 月</td><td>195,115 円</td><td>11 月</td><td>273,277 円</td></tr><tr><td>5 月</td><td>364,880 円</td><td>12 月</td><td>328,045 円</td></tr><tr><td>6 月</td><td>250,306 円</td><td>1 月</td><td>295,112 円</td></tr><tr><td>7 月</td><td>169,864 円</td><td>2 月</td><td>158,533 円</td></tr><tr><td>8 月</td><td>143,146 円</td><td>3 月</td><td>124,091 円</td></tr><tr><td>9 月</td><td>147,455 円</td><td>合計</td><td>2,690,502 円</td></tr><tr><td>10 月</td><td>233,518 円</td><td>平均</td><td>224,209 円</td></tr></table> R5 年度実績＝合計 2,626,734 円 平均 218,895 円 R5 年度と比較し合計 63,768 円の増 平均 5,314 円の増 *出荷重量 R6 年 1～12 月 3,501kg R5 年 1～12 月 3,858kg R4 年 1～12 月 3,648kg ⇒数値目標は達成できなかったが、売上は過去最高となった前年度をさらに上回った。 来年度気候の変化や設備の劣化に注意し、出荷重量の向上を目指す。	月	売上金額	月	売上金額	4 月	195,115 円	11 月	273,277 円	5 月	364,880 円	12 月	328,045 円	6 月	250,306 円	1 月	295,112 円	7 月	169,864 円	2 月	158,533 円	8 月	143,146 円	3 月	124,091 円	9 月	147,455 円	合計	2,690,502 円	10 月	233,518 円	平均	224,209 円
月	売上金額	月	売上金額																														
4 月	195,115 円	11 月	273,277 円																														
5 月	364,880 円	12 月	328,045 円																														
6 月	250,306 円	1 月	295,112 円																														
7 月	169,864 円	2 月	158,533 円																														
8 月	143,146 円	3 月	124,091 円																														
9 月	147,455 円	合計	2,690,502 円																														
10 月	233,518 円	平均	224,209 円																														
④就労移行（一般企業または就労継続支援 A 型事業所）＝ 1 人	今年度実績＝0 人 一般就労を希望する利用者様が 2 月に入られ、まずは生活リズムを整え、どの程度仕事ができるか試してみたいと言われている。																																

	来年度一般就労希望の方に、関係機関と十分連携をとって支援を行っていく。
⑤「利用者様満足度アンケート」の結果の向上	＊上半期アンケートの結果 Q4. 事業の雰囲気 「よい」↓、「ふつう」↑ Q7. 工賃 「よい」↓ 工賃は明らかに低下しているため、利用者様の満足度にもその影響がはっきり現れた。雰囲気に関しては、「作業中大声で喋る人を注意した方がいい」という意見が聞かれた。「話を聞いてほしい」というニーズが複数上がった。 ＊下半期アンケートの結果 Q4. 事業の雰囲気 「ふつう」↓、「よい」↑ Q7. 工賃 「よい」↑ 来年度工賃の向上と、利用者様が楽しく通い続けられる事業所づくりを目指していく。

(3) マンパワーの再構築

1 職員体制のあり方の見直しと資質向上

1) 職員体制の見直し

計 画	結 果
1) キャリアパスに応じた職責・職務に基づく体制の再構築	4月に落合主任が育休から復帰し、本来のキャリアパスに応じた体制を再構築できるよう努めた。主任が職責（支援の専門性を持ち、チームの運営調整を行う）、職務（専門性のあるサービス提供、チームの運営調整、一般職・臨時職員の指導）を果たせるよう、モニタリングの作成・モニタリングへの関わりのウェイトを増やし、利用者様全員の状況をしっかりと把握し、現場全体を見て支援を考えていけるよう、役割強化を図った。 来年度継続する。
2) 職員間の情報の共有、共通認識の形成、一貫した支援（ミーティング 1回／日、回覧板の活用等）	日常的にこまめな情報共有を行うとともに、日々のミーティングや支援会議資料の回覧等を行い、共通認識の形成に努めた。 来年度継続する。
3) 職員のニーズの把握（定期面談 1回／半年）、職員の意見を吸い上げ、体制のモニタリング・見直し	日々職員の意見を聞くとともに、定期面談によりニーズを把握し、体制の調整を図った。 来年度継続する。

1) 職員の資質向上

計 画	結 果
1) 外部研修への積極的参加と職員間での学びの共有	7 月 6 年度発達障がい児者支援者研修「睡眠について知ろう（睡眠の基礎知識から発達障がいとの関係まで）」（清水） 11 月 6 年度発達障がい者就労支援研修（清水） 1 月 発達障がい支援フォーラム 2024（清水） 来年度サビ管以外の職員にも研修参加を促していく。
2) 職員のニーズに応えるテーマで内部研修を開催する（1回／年）	11/13 開催。5 人参加。 テーマ：リスクマネジメント（社会福祉施設におけるリスクの発生や影響を最小限のものとするためのリスクマネジメントの仕組みについて学ぶ） 講師：島根県社会福祉士会 深貝登志子様 来年度継続する。

2 家庭と両立できる労働環境づくり

計 画	結 果
1) 各種両立制度の活用促進	落合主任：育休復帰後、時短勤務制度利用中。 ○商工会奨励金受給 出産後職場復帰奨励金（1/17 支給決定） 来年度制度の活用促進、奨励金等あれば申請を行う（商工会「子育て・介護と両立しやすい職場づくり奨励金」申請予定）。
2) 年次有給休暇の取得促進（取得率 70% 以上）	常勤職員の取得率平均＝78% パート職員はそれぞれの契約期間毎に取得してもらった。 来年度継続する。

令和6年度事業報告

2024年4月1日 ～ 2025年3月31日

特定非営利活動法人 みずうみ

1 事業の成果

6年度は前年度までの経験を生かし、障がい者福祉事業を主体として、下記の事業を実施した。4年度に取得した新施設を活用したレストランでの施設外就労を継続的に実施することができ、利用者様の就労訓練、社会参加、工賃の維持に効果があった。また、工賃の向上を目指して新規の自主事業を検討し、来年度以降の開始に向けて方向性を定めることができた。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
①障害福祉サービス事業所の運営事業	就労継続支援B型事業所運営に必要な総合的支援事業	月～金曜日	ワークケアみずうみ	16人	利用者24人 延べ3101人	23,614
②職業訓練及び就労支援事業	就労のための訓練及び自立のための支援	月～金曜日	ワークケアみずうみ	8人	利用者24人 延べ3101人	3,725
③ノーマライゼーションの普及活動	各団体、組織と共同での啓発活動等(地域イベントへの参加)	地域イベントは台風のため開催中止	ワークケアみずうみ	16人	利用者24人 延べ3101人	731 ※1
④リサイクル運動の推進	アルミ空き缶回収・分別作業、回収業者への引き渡し	月～金曜日	湖陵町内、ワークケアみずうみ	利用者、職員、役員、会員、地域住民が協力	利用者24人 延べ3101人	328

※1 「ノーマライゼーションの普及活動」事業では、例年、地域イベント出店による収益及び職員の作業工賃を利用者様のボーナスとして支給しているが、6年度は台風のため地域イベントの参加を中止したため、職員の作業工賃、椎茸・みづばちの収益を分配して支出した。